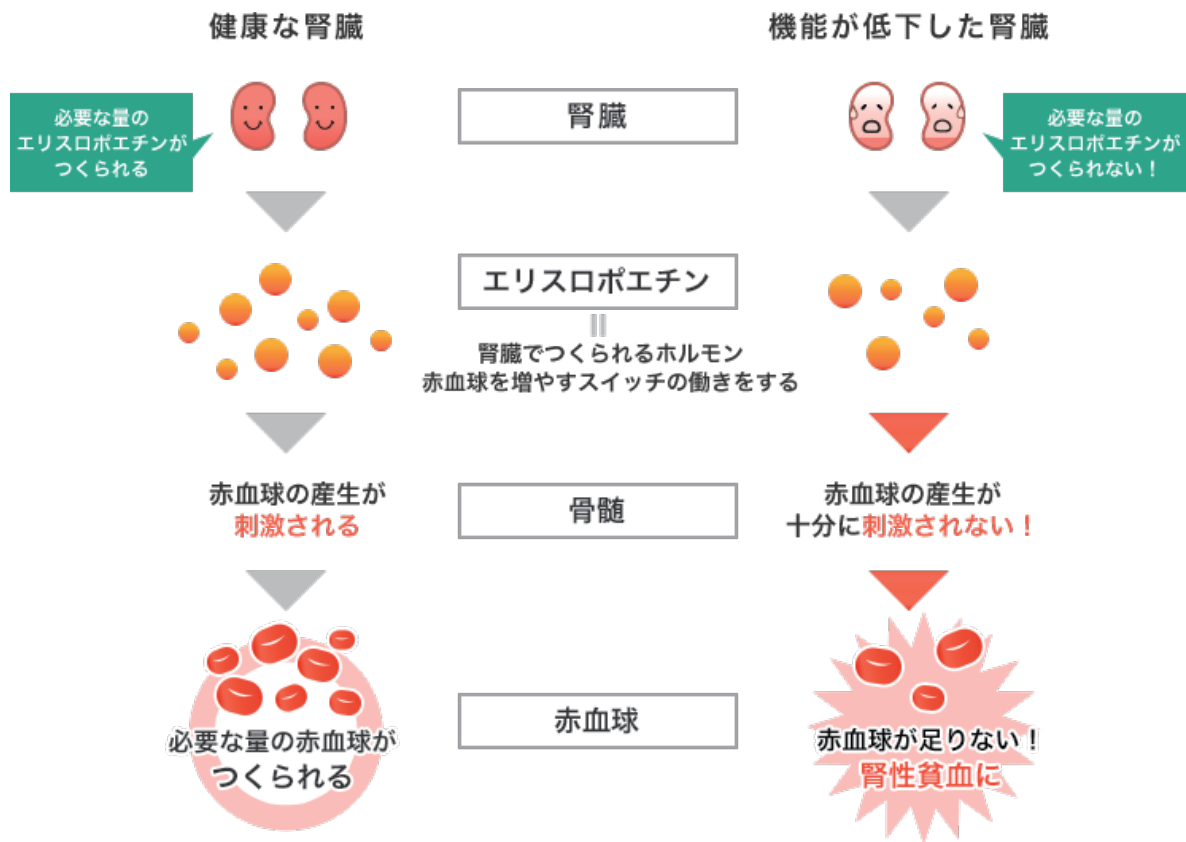


■特集 腎性貧血とは?

腎臓機能低下と貧血

腎臓はさまざまなホルモンを分泌しています。そのひとつに赤血球をつくるはたらきを促進するエリスロポエチンというホルモンがあります。腎臓のはたらきが低下すると腎臓からのエリスロポエチンの分泌が減り、赤血球をつくる能力が低下することで貧血になります。

このようにしておこる貧血を「**腎性貧血**」といいます。



腎性貧血の症状

赤血球は体のすみずみにまで酸素をはこぶ役割を持っています。

赤血球が減り「腎性貧血」になると、**疲れやすい、動悸・息切れ、めまい**などの症状があらわれます。ところが、貧血は徐々に進行するので、体がその症状に慣れてしまって気がつかないケースがあり、注意が必要です。

また、貧血状態では全身の酸素不足が起こります。これをカバーするために心臓には常に負担がかかっています。

腎臓の機能が低下している慢性腎臓病 (CKD) 患者さんは、定期検査で行われる血液検査の**ヘモグロビン値**で貧血かどうか分かりますので、貧血の症状が悪化する前に適切な治療をすることが大切です。

貧血には、体の鉄が不足してヘモグロビンの産生が不十分になることでおこる「鉄欠乏性貧血」がありますが、「腎性貧血」とは原因が異なり、治療方法も違います。よく貧血は鉄を補給すればよいといわれますが、腎性貧血は**鉄剤だけを補給しても改善しません**。

■特集 腎性貧血とは?

腎性貧血の治療について

腎性貧血の治療

腎性貧血には、エリスロポエチンの分泌不足を補うために赤血球造血刺激因子製剤による薬物治療が行われます。また、あわせて食事療法や、鉄剤の投与も行われます。

腎性貧血の治療目標

慢性腎臓病 (CKD) 患者さんに推奨される治療目標値はヘモグロビン値11g/dL~13g/dLの範囲内で、これを超える場合には、腎性貧血治療薬を減らしたり、休薬したりすることがあります。ただ、最終的には個々の患者さんの病態にあわせて目標値は設定されます。心臓や血管などに重篤な疾患がある患者さんや、医学的に必要のある患者さんには、ヘモグロビン値12g/dLを超える場合に、腎性貧血治療薬を減らしたり、休薬したりすることがあります。

腎性貧血治療の重要性

腎性貧血になると、疲れやすいなど日常生活が妨げられ、さらに貧血が強いほど末期腎不全になる割合が高いといわれています。

腎性貧血を治療することで、疲れやすい、動悸・息切れといった症状が改善するほか、心臓のはたらきも改善し、早い時期から貧血治療をすることによりCKDの進行を抑えることが期待できるなどの報告*1もあります。

一方で、CKDの進行を抑えることについては貧血治療とは関連しないという報告*2もあり、結論はでていません。

*1 Gouva C, et al. :Kidney Int 66 ; 753-760, 2004

*2 Covic A, et al. :Am J Nephrol 40 ; 263-279, 2014

